

【別添2】

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立土岐紅陵高等学校 学校番号 47

I 自己評価

| | | | |
|-------------|---|--|---|
| 1 学校教育目標 | (1) 自己の在り方や生き方を主体的に考えるとともに、思いやりのある人間を育成する。 (2) 社会で求められる資質や品格を身に付けた人間を育成する。 (3) 地域社会に貢献できる人間を育成する。 | | |
| 2 スクール・ポリシー | 『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・基本的な生活習慣、倫理観及び社会的なマナーを身に付け、互いの多様性や人権を尊重し思いやる心と生命、自然、文化を大切にす生徒 ・自己の可能性を信じ、自己を成長させるため、生涯にわたり主体的かつ意欲的、継続的に学習する努力を惜しまない生徒 ・思考力と適切な判断力を身に付け、社会の進展に主体的に対応するとともに、他者と協働して豊かな地域・社会を創造する生徒 | 『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・一人一人の個性、感性及び長所を伸ばすための多様な科目選択を可能にする教育課程の編成と、ICTを有効に活用した粘り強く丁寧できめ細かな指導の実施 ・地域社会の一員としての自己有用感を持たせるとともに、主体性や協調性を育成するため、地域社会と連携・協働した体験的・実践的な活動を積極的に実施 ・思考力、判断力、表現力等を育成するための課題解決学習を中心とした探究的な学びの推進 | 『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・互いの違いや良さを理解し、互いに認め合う努力をするとともに、自らを律しつつ、他者を思いやり、他者とともに協調する努力ができる生徒 ・自己の生き方について主体的に考えるとともに、将来の多様な進路実現に向けて学習活動、部活動、学校行事などに真面目に取り組む生徒 ・奉仕活動や体験活動等の地域活動を通して地域社会と積極的に関わり、仲間とともに人間性、社会性を高めようとする生徒 |

| | | |
|---|--|---|
| 3 評価する領域・分野 | ◇教務（学習指導） | |
| 4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等 | <ul style="list-style-type: none"> 「授業や家庭学習への指導・支援等を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている」の肯定的な評価は生徒70%、保護者等80%である。 「ICTを活用した学習活動や協働的な学びの機会、オンライン等での学習支援などがあり、それが学習の理解につながっている」の肯定的な評価は生徒65%、保護者等77%である。 | |
| 5 今年度の具体的かつ明確な重点目標 | <ul style="list-style-type: none"> ◇「学び方」や「学ぶ力」を身に付け、「学ぶ楽しさ」を感じることができ教育活動を推進します。 ◇ICT機器を有効に活用し、主体的で対話的な授業を展開する。 | |
| 6 重点目標を達成するための校内における組織体制 | <ul style="list-style-type: none"> ICT教育推進担当者を中心に、ICTの効果的な活用について研修を推進する。 公開授業週間等を活用して授業を見直し、改善を行う。 | |
| 7 目標の達成に必要な具体的な取組 | 8 達成度の判断・判定基準あるいは指標 | |
| <ul style="list-style-type: none"> (1) 「できなかったことができるようになった」場面をできる限り多く設ける等の授業改善に取り組みます。 (2) コミュニケーション能力の向上を目指し、可能な限り対話の場面を取り入れる等の授業改善に取り組みます。 (3) ICTを活用した教育活動及び遠隔授業について、実践を通じて研究を進めます。 | <ul style="list-style-type: none"> (1) 学校評価の「学習指導」に関係する項目で肯定的な結果が70%以上であるか。 (2) 授業評価アンケートで肯定的な結果が70%以上であるか。 (3) 学習支援システムの活用と公開授業週間における生徒用端末を活用した授業の実施。他校（総合学科）と接続した遠隔授業を実施する。 | |
| 9 取組状況・実践内容等 | 10 評価視点 | 11 評価 |
| <ul style="list-style-type: none"> 公開授業における各授業の取り組みを、全ての教員が知ることができるようにし、生徒にとってより効果的な指導の研究に生かせるようにした。 各授業において、主体的で対話的となる時間をとるように努め、その成果を全員で共有できるようにしている。 6月と11月の公開授業週間を中心に、ICTを用いた授業研究を行った。9月にはICTへの取り組み状況について、職員にアンケートを行い、啓発をした。 <p>恵那南高校と相互に1時間ずつ授業配信を行った。家庭科（福祉）の授業において、恵那南高</p> | <ul style="list-style-type: none"> ①アンケートで肯定的な評価が70%以上であったか。 ・授業の教え方や説明が分かりやすい先生が多い。85%(生徒) ・教員は、授業をとおして、学力が向上するように指導している。67%(保護者) ②アンケートで肯定的な評価が70%以上であったか。 ・テストの得点だけでなく、いろいろな面から学習の評価を行っている。86%(生徒) 80%(保護者) ③アンケートで肯定的な評価が70%以上であったか。 ・ICTを活用した学習活動や協働的な学びの機会、オンライン等での学習支援などがあり、それが学習の理解につながっている。77%(生徒) 68%(保護者) <p>他校との遠隔授業に取組めたか。</p> | <p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p> |

| | | |
|-------------|--|-----------------|
| | 校の授業を受け、芸術（美術）の授業において、本校から配信した。 | |
| 12 成果・課題 | <p>○年度初めに、授業を大切にす姿勢を示すことによって、生徒からの信頼を確立し、教育活動全般の土台を形成するという共通認識を徹底することができた。</p> <p>○上記に沿って、授業には絶対に遅れていかない、授業の終了までは終わらないという基本に立ち返ることを周知することができた。</p> <p>○ICT教育への一層の啓発をすることができた。とりわけ公開授業週間を利用して、職員間の意識を高めることができた。</p> <p>○新学習指導要領の新しい評価基準である観点別評価への円滑な移行をすることができ、知識のみだけでなく、適切に観点別評価を実施することができた。</p> <p>▲コロナ禍での影響もあるが、各考査において、追試対象者・再試対象者の数が多くなっており、より一層の学習意欲喚起が必要となっている。</p> <p>▲授業に遅刻をしたり、授業の教材を忘れてりする頻度が高い生徒もおり、授業への参加意識を高めることが必要となっている。</p> <p>▲ICTを活用した授業では、教員自らが精通した学習支援システムのみを活用することが多く、より多様なシステムを使いこなせるようになる必要がある。</p> | 総合評価 A ② C D |
| 13 | <p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に対する教員の意識を一層高めること。 ・授業に対する生徒の意識を一層高めること。 ・新学習指導要領となる新2年生の科目の観点別評価を確立すること。 ・ICTを用いたより有効な授業を展開すること。 | |

| | | |
|---|--|---|
| 3 | 評価する領域・分野 | ◇生徒支援・特別活動 |
| 4 | 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「人間としての基本的なモラルやマナーを身に付けさせようと努めている。」の肯定的な評価は生徒81%である。 ・「いじめや差別を許さず、厳しく対応している。」の肯定的な評価は生徒78%、保護者等64%である。 ・「高校生としてのマナーや社会規範を身に付けさせるための指導を行っている。」の肯定的な評価は保護者等77%である。 |
| 5 | 今年度の具体的かつ明確な重点目標 | <ul style="list-style-type: none"> ◇生徒の自己有用感を育む ◇社会性と規範意識を高める ◇安全・安心な学校環境を整える |
| 6 | 重点目標を達成するための校内における組織体制 | <ul style="list-style-type: none"> ・機を逃さず適切な支援を行えるよう、各学年を中心とした組織的対応を実践する。 ・関係機関等との連携による支援体制の充実を図る。 |
| 7 | 目標の達成に必要な具体的な取組 | 8 達成度の判断・判定基準あるいは指標 |
| | <p>(1) 努力過程での積極的な評価や自己有用感を高めることができる取組の充実を図ります。</p> <p>(2) 基本的な生活習慣を確立しながら、集団の一員として地域社会に貢献できる人となれるよう、日々の生活指導の充実を図ります。</p> <p>(3) 生徒が安心して学校に通い、危険から身を守ることができるよう外部講師の講話など、取組の充実を図ります。</p> | <p>(1) 学校評価の「特別活動」に関する項目で肯定的な結果が70%以上であるか。</p> <p>(2) 学校評価の「生徒指導」に関する項目で肯定的な結果が70%以上であるか。</p> <p>(3) 外部講師による講話と職員研修会を実施する。</p> |
| 9 | 取組状況・実践内容等 | 10 評価視点 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部が中心となり、紅陵祭(文化祭)、球技大会(2回実施)などの学校行事の充実を図ることができた。また、東濃特別支援学校とのオンライン共同学習を実施することができた。 ボランティア活動として、MSリーダーズ活動(地域清掃・ハローモーニング・あいさつデー・土岐市駅前啓発活動)、下石窠元まつりへの協力(野球部・サッカー部・有志ボランティア)、忠霊塔清掃(野球部)に取組んだ。 部活動では、ウエイトリフティング部がインターハイ・国体への出場を果たした。 土岐市青少年の主張大会や西陵校区青少年の主張大会に代表生徒が参加することができた。 スクールカウンセラーや行政機関などの外部機関と連携を図りながら、個々の生徒の支援の充実を図ることができた。 | <p>11 評価</p> <p>①アンケートで肯定的な評価が70%以上であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動が活発である。64%(生徒) ・ボランティア活動の大切さを教えると同時にその機会を提供している。66%(生徒) 57%(保護者) ・部活動は、適切な管理体制のもとに行われている。81%(生徒) 72%(保護者) <p>②アンケートで肯定的な評価が70%以上であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめや差別を許さず、厳しく対応している。78%(生徒) 64%(保護者) |
| | | A ② C D |
| | | A ② C D |

| | | |
|--|--|----------------|
| <ul style="list-style-type: none"> 生徒指導ガイダンスやスタイリングセミナーなどを通して生活指導の充実を図ることができた。男女共同参画基礎講座や人権講話等により、他者理解や自己コントロールの視点を広げることができた。 スマホ安全教室や、情報モラル教室、薬物乱用防止講話、SOSの出し方教育、自転車通学者の自転車安全講習会等の講話を実施することができた。 教員に対しては、いじめ・不登校に関する職員研修、学校で磨くコミュニケーション・スキル等の研修の充実を図ることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒の相談に丁寧に応じている。74% (保護者) 悩みや相談事に親切に対応してくれる先生が多い。72% (生徒) <p>③講話と研修会は計画的に実施できたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部講師の講演や様々な体験活動等、授業以外の学習機会や学校行事の有無、実施方法等について、新型コロナウイルス感染症対策等を講じ、生徒の安全を最優先として適切に計画している。80% (生徒) 84% (保護者) | <p>Ⓐ B C D</p> |
|--|--|----------------|

| | | |
|-----------------|---|----------------------------|
| <p>12 成果・課題</p> | <ul style="list-style-type: none"> 外部講師の講話を積極的実施した。 いじめ・不登校に関する職員研修を実施し、職員の意識改善につなげることができた。 生徒会でインスタグラムの運営提案や生徒心得の改定などについて協議をすることができた。 外部機関（市町村、警察、医療、子ども相談センター、スクールカウンセラー、東濃圏域発達障がいセンター）との連携ができた。 ▲部活動の加入率が80%を切っている。特に3年生の加入率が低い。 ▲授業規律が守れない生徒や基本的生活習慣が身についていない生徒、不登校生徒（月に7日以上欠席者15名 通算30日以上欠席者4名）への対応の充実。 ▲いじめ認知件数（いじめ対策防止推進法における）が昨年度より増加。 | <p>総合評価</p> <p>A Ⓑ C D</p> |
|-----------------|---|----------------------------|

| | |
|-------------------------|---|
| <p>13 来年度に向けての改善方策案</p> | <ul style="list-style-type: none"> いじめ認知件数が6月と12月が非常に多い。6月までにスクールカウンセラーによる「いじめに関する取り組み」の校内研修会（職員・生徒）を行う。また、7月と11月に人権講話を計画する。 学校行事や生徒心得（校則）の改訂など、生徒会が中心となって生徒が主体的に活動できるよう支援する。 いじめ事案や問題行動について、組織的な対応の充実を図る。 授業規律や基本的生活習慣が心配な生徒に対して、家庭と連携を取りながら「改善書」や「ファイル指導」を通して支援する。 建造物損壊や不審者対応として、防犯カメラの設置を要望していく。 |
|-------------------------|---|

| | | |
|---|--|--|
| <p>3 評価する領域・分野</p> | <p>◇進路支援</p> | |
| <p>4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等</p> | <ul style="list-style-type: none"> 「生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている。」の肯定的な評価は生徒72%である。 「生徒の将来の希望に沿った具体的な進路指導が行われている。」の肯定的な評価は生徒72%、保護者等83%である。 「進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている。」の肯定的な評価は保護者等82%である。 | |
| <p>5 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p> | <p>◇キャリア意識の向上と自己肯定感の醸成を目指す教育活動を推進します。</p> <p>◇生徒の生き方・在り方指導を中心として、生活や人生を考え、生徒が誇りある選択ができる能力や態度を育てる</p> | |
| <p>6 重点目標を達成するための校内における組織体制</p> | <ul style="list-style-type: none"> 総合学科の特色を理解させ、3年間を見通した進路意識を早期から持たせられるよう進路ガイダンスの充実を図る。 各学年、分掌と連携し、進路実現に向けた継続的な進学補習、小論文・作文指導、面接・マナー指導、生き方指導を充実させる。 生徒一人ひとりが特性と適正を生涯にわたって生かせるよう徹底して個人と向き合い、保護者とともに考える。 | |
| <p>7 目標の達成に必要な具体的な取組</p> | <p>8 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p> | |
| <ol style="list-style-type: none"> 総合学科の特色を理解させ、3年間を見通した進路意識を早期から持たせられるよう進路ガイダンスの充実を図る。 各学年、分掌と連携し、進路実現に向けた継続的な進学補習、小論文・作文指導、面接・マナー指導、生き方指導を充実させる。 生徒一人ひとりが特性と適正を生涯にわたって生かせるよう徹底して個人と向き合い、保護 | <ol style="list-style-type: none"> 学校評価の「進路指導」に関する項目で肯定的な結果が生徒・保護者とも80%以上であるか。 学校評価の「進路指導」に関する項目で肯定的な結果が生徒・保護者とも80%以上であるか。 就職・進学ともに進路実現100%。 | |

| | | |
|--|---|--|
| 者ととともに考える。 | | |
| 9 取組状況・実践内容等 | 10 評価視点 | 11 評価 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ハローワークガイダンス、多治見法人会面接指導、リーガルマインドガイダンス、上級学校、企業見学会、オンライン進学ガイダンス、合同企業説明会、校内進路ガイダンス ・2、3年生進学補習（国語、数学、英語各週1回）、就職試験における個別指導 ・対面による生徒個別指導、対面、電話による保護者との懇談 | <p>①アンケートで肯定的な評価が80%以上であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている。86%（生徒） <p>②アンケートで肯定的な評価が80%以上であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の将来の希望に沿った具体的な進路指導が行われている。86%（生徒） ・生徒の進路希望に沿った適切なアドバイスをしている。77%（保護者） <p>③就職、進学実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている。72%（保護者） ・12月末現在で就職96%、進学97% | <p>① A B C D</p> <p>② A ③ B C D</p> <p>③ A ③ B C D</p> |
| 12 成果課題 | <p>○1年生時の進路ガイダンスを外部団体の協力を得て充実させたことで、3年間を通して段階的に取り組めるような状況を作ることができた。</p> <p>○生徒一人ひとりと向き合えるよう、個別指導・支援や保護者との相互理解が深まる取り組みが推進できた。</p> <p>▲各学年団、教科との連携はできたが、進学補習の面で若干行き届かなかった部分もある。</p> | <p>総合評価</p> <p>A ③ B C D</p> |
| 13 来年度に向けての改善方策案 | <ul style="list-style-type: none"> ・進学補習と部活動との両立をはかる。 ・就職における面接指導、礼儀作法指導、表現指導の充実を図る。 | |

| | | |
|--|--|-----------------------------------|
| 3 評価する領域・分野 | ◇家庭（地域）との連携活動・総合学科推進・広報活動 | |
| 4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間（課題解決学習を含む）や産業社会と人間の内容は自分にとって有意義である。」の肯定的な評価は生徒【前年度】68%より【今年度】83%に向上した。 ・「系列や科目の選択が、お子様の将来の目標となっていると感じる。」の肯定的な評価は保護者等78%である。（前年度は「総合学科として期待に込めている」84%） ・「ホームページ等を用いて、保護者（地域）へ様々な情報を速やかに伝えている。」の肯定的な評価は保護者等【前年度】84%より【今年度】79%へと下降した。 | |
| 5 今年度の具体的かつ明確な重点目標 | ◇総合学科としての特色を生かした教育計画づくり ◇「開かれた学校」づくりの推進 | |
| 6 重点目標を達成するための校内における組織体制 | <ul style="list-style-type: none"> ・進路支援部、活性化推進部、各学年の連携を図りながら組織的・計画的な取組を実践する。 ・関係機関等との連携による取組の充実を図る。 | |
| 7 目標の達成に必要な具体的な取組 | 8 達成度の判断・判定基準あるいは指標 | |
| <p>(1) 総合学科の特色を生かし、進路希望に応じた系列や幅広い科目の選択と指導の充実により、学びの充実に努めます。</p> <p>(2) 地域との連携を通して産業社会の実態や社会人としての在り方の様ざまなモデルに触れる機会の充実を図ります。</p> <p>(3) 地域の支援を受けて取組む「課題解決学習」の成果を発表する機会の充実を図ります。</p> <p>(4) オープンスクール、高校説明会などを効果的に実施し、本校の魅力を広くアピールする。</p> | <p>(1) 系列、科目の選択に関わるガイダンスと系列別授業見学会等を実施。職員研修会を2回以上実施する。</p> <p>(2) 社会人講話等を2回以上実施する。</p> <p>(3) 「課題解決学習」等の取組を年6回以上実施する。また、学習成果について、中間発表を含めて2回実施する。</p> <p>(4) 参加者のアンケート結果で肯定的な結果が80%以上であるか。</p> | |
| 9 取組状況・実践内容等 | 10 評価視点 | 11 評価 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンスと系列別授業見学会を予定通り実施。職員研修会を実施。 ・社会人講話として <ul style="list-style-type: none"> 1年生：男女共同参画基礎講座（県） 2年生：美濃陶磁歴史館（博物館の役割）、可茂IT塾（アプリ開発） 3年生：選挙について（土岐市選挙管理委員会）、租税教室（税務署） | <p>①ガイダンスや研修会は予定どおり実施できたか。</p> <p>②社会人講話等は予定どおり実施できたか。</p> | <p>A ③ B C D</p> <p>① A B C D</p> |

| | | |
|--|---|---------------------------------|
| <p>地域の支援を受けて「下石町窯元まつり」に2年生が参加し、協働学習に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生の「課題解決学習」学習成果発表の実施 ・「中学生一日体験入学」と「秋の高校見学会」の実施 | <p>③学習成果を発表することができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年2回の実施 <p>④アンケートの結果が80%以上であったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生一日体験入学の肯定的結果 98.9% ・秋の高校見学会の肯定的結果 100% | <p>A ② C D</p> <p>④ A B C D</p> |
| <p>12 成果 ・ 課題</p> | <p>○下石町「窯元まつり」との協働学習について、組合の方からお褒めの言葉をいただき、生徒の自己肯定感を高められるような有意義な活動となった。</p> <p>○2年生について、次年度の「課題解決学習」の基盤となるよう、土岐市の産業である陶磁器について知識を深めることができた。</p> <p>○2年生について、「加茂IT塾」の講義により、ゲームアプリ開発につながるプログラミングの体験授業を行い、意欲的に取り組む様子が見られた。</p> <p>▲3年生の集大成である課題解決学習にいたるまでの、探究学習の独自性が表向きにわかりづらい。</p> <p>▲ホームページによる広報活動については、更新頻度は、事実上昨年度よりも増しているにも関わらず、評価が多少下がっている。</p> <p>▲保護者アンケート「土岐紅陵高校は地域から良い評価を得ていると感じる」（学校独自項目）について、肯定的評価が51%である。</p> | <p>総合評価</p> <p>A ② C D</p> |
| <p>13</p> | <p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の探究学習について、下石陶磁器工業協働組合に連携を依頼し、地域イベント「窯元まつり」への参画を基盤として地場産業である「美濃焼」の歴史や伝統を認識し、地域の人々とのかかわりによる協働学習の充実を図る。 ・可茂IT塾の協力を経て、ICTを使って表現することを通して、地元企業の研究に取組む。 ・ホームページの更新による情報発信、外観やデザインの改編を通して、本校（総合学科）の長所と独自性を伝えていく。 ・「地域からの評価」については、生徒の日常からの行動や品位が問われているところだと思う。キャリア教育の一環として指導計画を立案する。 | |

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年9月1日、令和5年1月20日

| |
|---|
| <p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学前と入学後でのギャップがあると思うが、95%が入学できてよかったと回答していることに驚くとともに、教職員の努力を感じる。学校の存続において大切なことである。 ・入学できてよかったことについて、具体的に何がよかったのかを調査できるとよい。 ・タブレット端末を78%がもっと活用したいと回答しているが、具体的にどの様に活用したいかを調査できるとよい。 ・アンケートの「わからない」という回答については、情報発信を工夫することで学校への理解を深められるとよい。 ・地域からの学校に対する評価については、以前にも宣伝不足への問題提起があった。幼保・小・中との連携のなかで協力してできるとよい。 ・「高校に入って英語が分かるようになった」という生徒の声が聞けることはよいことである。 ・毎朝校歌が流れているのを聞いているが、音楽だけであったものが声入りのものに進化し、学校の試みを身近に感じている。 ・登下校時に挨拶をすると、しっかりと返ってくる。規範意識が身につけていると感じる。 ・地域との協働や連携では、地域への貢献や愛着の視点を大切にしてほしい。 ・地域の「窯元祭り」については、コロナ禍で実施できない期間があり、形を変えての実施で集客の予想も難しいなかでメイン会場をお願いしたが、高校生がいなかったらイベントが回らなかったと感じている。来年度もぜひ協力をお願いしたい。 ・地域とのつながりという点において、公民館とのつながりを大切にしてほしい。地域学校協働活動として青少年育成委員には中学校で終わらせず、高校生まで連携することが指導者の育成につながることを話している。幼保小中高の地域づくりを大切にしたい。 ・進路という点において、自分の先を見ながら、生き方や進路、興味関心に応じて設定した課題を調べた上で学習発表に参加する流れが作られており、教育の過程が機能している。 |
|---|